

エイジフレンドリーシティ推進戦略

～西部地区編～



【作 成】

○エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ（西部地区編）

○秋田市福祉保健部長寿福祉課 エイジフレンドリーシティ推進担当

【監 修】

東海大学工学部建築学科 特任准教授 後藤 純

2021 年 3 月

目次

1 はじめに	1
2 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について	1
3 ワークショップで出された様々な課題やアイデア	2
基本目標1の課題やアイデア	3
基本目標2の課題やアイデア	5
基本目標3の課題やアイデア	7
基本目標4の課題やアイデア	9
基本目標5の課題やアイデア	11
基本目標6の課題やアイデア	13
基本目標7の課題やアイデア	15
基本目標8の課題やアイデア	17
4 西部地区におけるエイジフレンドリーシティ推進戦略	19
5 推進戦略の実施に向けて	20
6 さいごに	21

1 はじめに

エイジフレンドリーシティ推進戦略を策定した目的

秋田市では、平成21年度（2009年度）からエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現を目指し、様々な取組を推進してきましたが、10年が経過した今、もう一度、原点に立ち帰り、「**年を重ねても住み続けたいと思える地域をみんなで作るためには、何が必要なのか**」を行政、市民、民間事業者が一緒になって考えることを目的とした「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ」を開催しています。平成30年度の中央地区を皮切りに、令和3年度までに4地区での実施を予定しており、令和元年度は西部地区において令和2年1月から7月にかけて開催しました。

西部地区のワークショップには、生活支援コーディネーター^{*1}や町内会長、そしてエイジフレンドリーパートナー^{*2}やNPO法人、さらには秋田公立美術大学の学生など、立場や年代の様々な28名の皆様にご参加いただき、自分たちが住んでいる地域にはどのような課題があり、それらを解決するためにはどのようなアイデアや方法があるのかについて話し合いを重ねました。そして、最終回において、西部地区における地域の課題を解決するための具体的なアイデアをまとめた「エイジフレンドリーシティ推進戦略～西部地区編～」を策定しました。

この「エイジフレンドリーシティ推進戦略～西部地区編～」は、行政、市民、民間事業者の三者の協働によるエイジフレンドリーシティの実現を目指した、西部地区におけるまちづくりの一つの方向性を示したものであり、今後は「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会」^{*3}へ報告するとともに、アイデアの実現に向けて、引き続き、三者がそれぞれの役割を發揮しながら、ともに取組を推進していきます。

2 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について

8つの基本目標

秋田市では、平成25年度（2013年度）に策定した第1次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画に続き、平成29年度（2017年度）からは、第2次行動計画に基づいた取組を推進しており、「心豊かで活力ある健康長寿社会」の基本理念のもと、エイジフレンドリーシティを実現するために、次の8つの基本目標を

設定するとともに、これらの目標を達成するための市が目指すまちづくりの方向性を「指標」として設定しています。

	基本目標	指標（市が目指すまちづくりの方向性）（抜粋）
1	安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等のバリアフリーの推進 ・交通事故の少ないまち
2	交通機関の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・バス路線が維持され積極的に利用される ・ノンステップバス等の導入により、誰もが利用しやすくなる
3	安心して快適に住み続けられる住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要になっても、リフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす ・一人暮らしでも、近所の支え合いがある
4	生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者が増え、趣味・スポーツ・生涯学習など積極的に地域社会に参加している
5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の交流や町内会活動が活発 ・若い世代が地域活動に積極的
6	高齢者の就業や市民参加の機会創出	<ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代を迎え、生涯現役で活躍できる場を創出する
7	高齢者の情報環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が必要とする情報が行き届くよう、あらゆる広報媒体を使用して、情報提供する
8	多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の延伸や、最後まで自宅・地域で暮らせるシステムを構築する

3 ワークショップで出された様々な課題やアイデア

今回のワークショップでは、第2次行動計画で設定した8つの基本目標と指標について、次の視点で参加者に話し合ってもらい、その結果、数多くの課題やアイデアが8つの基本目標ごとにまとめられました。

- ・エイジフレンドリーシティを目指す上で、市が目指している方向性は正しいか。
- ・設定している目標・指標に対して、地域ではどのような課題があるか。
- ・地域での課題はどうしたら解決できるのか（アイデアや方法を考える）。

基本目標 1 安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備

指標（主観的指標）	近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合
市が目指している方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設等のバリアフリーの推進 ・ 交通事故の少ないまち など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

歩道環境が悪い

課 題	道路が狭い・歩道の整備状況が悪い（ひび割れ、穴）
	バス路線の歩道が整備されていない
	朝夕の交通量の多さ・朝夕に送迎車の路上駐車が危険
アイデア	交通規制表示（速度表示、ゾーン30など）をより鮮明にする
	狭い道こそ片側だけでも歩道を整備

坂道や横断環境の課題

課 題	坂道が多く高齢者の歩行は大変・横断者の多い道路に信号がない
アイデア	坂道にベンチを置く・信号機等の整備（要望）
	子どもを中心に、坂道で困っている人に積極的に声をかけ手助けする

気軽に集まれる場所がない

課 題	気軽に集まったり、座ったり、ご飯を食べたりする場所が少ない
	場所があっても参加者が少ない・交通手段がない
アイデア	スーパーなど、人が集まる場所を活用する
	天候の悪い時に使える小規模施設があればよい

除雪・歩道の除雪

課 題	独居高齢者は除排雪が困難・排雪スペースがない
	冬は転倒が怖くて外出しにくい
アイデア	丁寧な除雪による歩道確保（業者のレベルアップ）・雪出しマナーの徹底
	ボランティアの力を借りる・融雪設備の増設

街区公園の管理の問題

課 題	街区公園の管理に問題がある（除草されていない）
	日よけやベンチなどが不十分
アイデア	街区公園の利用について補助を出す

バリアフリーについて

課 題	障がい者が利用できるトイレ、駐車場が少ない・障がい者用駐車場が施設から遠い
アイデア	公共施設の障がい者用トイレと駐車場の距離を見直す

高齢者の運転

課 題	高齢者（認知症の疑いのある方）の車の運転が心配
アイデア	免許返納者への特典



基本目標 1 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 安全な歩行・横断環境の確保（歩道の確保、坂道対策、減速、バス停、除雪）
2. 公園の活用、管理の充実
3. 気軽に集まれる小さな場所づくり（居場所への移動手段も含めて）

基本目標 2 交通機関の利便性の向上

指標（主観的指標）	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合
市が目指している方向性	・コインバス事業により、高齢者の外出が促進される ・ノンステップバスの導入などにより誰もがバスを利用しやすくする など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

バスの便・バス停の位置が不便

課題	バスの本数が少ない
	バスの行き先が少ない・乗り継ぎが不便
	バス停の位置が不便・バス停まで遠い
アイデア	オンデマンドバス・地域コミュニティによる相乗り、バス路線の増
	ICカード方式の普及、最終便の時間を遅くする

バスの乗降が不便

課題	シルバーカーなどを持って利用しにくい（置き場所がない）
	全車がノンステップバスではない・バスが小さい
アイデア	ノンステップバスを増やし、目立つ表示をする
	乗車手助けの体制を整える

バス停の環境が悪い

課題	屋根なしのバス停が多く、冬場は寒そう
	バス停にベンチがあればいい
アイデア	バス停をあたたかく、たのしい場所にする→利用者以外も集まれるような場所にする
	バス停のベンチに企業広告を入れて寄付してもらう

高齢者の運転

課題	車がないと生活が不便・免許返納した人への配慮が少ない
	近くのコンビニへ行くにも乗用車利用・多少歩行困難でも車の運転はできる
アイデア	目的地（市役所、支所など）へ直行できるバス
	地域の資源（勝平タクシーなど）を活用する（乗り合いタクシーの試行実験など）
	免許更新方法の検討

バス以外の外出手段がない

課 題	バス以外の外出手段がない
	重い荷物を持ってバスに乗るのが大変
アイデア	地域で気軽に頼める送迎システムを作る
	スーパーによる買い物バスの運行
	具体的に、何が（どこが）不便かなど実態調査を行う



基本目標 2 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. バスの路線拡大をはかり、高齢者の外出を促進
2. 障がい者・高齢者がスムーズ・快適に乗降できる工夫（車いす、カートを持っていても乗りやすい、混雑した車内でも席に座れるなど）
3. バス以外の移動手段等を組み合わせた総合的な移動環境の確保（MaaS モビリティ・アズ・ア・サービス）
4. 屋根をつけたリベンチを設置するなどバス停環境の向上
5. 地域で暮らす様々な条件のシニアとともに、外出環境調査を実施する

基本目標 3 安心して快適に住み続けられる住環境の整備

指標（主観的指標）	住環境に何らかの不便・不満を感じている高齢者の割合
市が目指している方向性	・介護が必要になっても、リフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす ・一人暮らしでも、近所の支え合いがある など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

住環境整備について情報不足

課題	住環境整備は必要だが、どのようにすべきか分からない
	リフォーム費用の問題
	リフォームについての情報不足
アイデア	リフォームへの資金補助を積極的に行う
	独居高齢者へのリフォーム補助制度（オール電化、ガス化など）

戸建て住宅の管理についての負担

課題	戸建て住宅の管理が大変（掃除、ゴミ捨て、除雪など）
	高齢になるほど住戸まわりの不便が増える
	独居高齢者への人的支援が必要だが、どこまで支援できるか疑問
	困りごとがあってもなかなか頼めない
アイデア	地域で助け合いのグループを作る
	他の地域からの派遣も併用（近所の人には頼みづらい）
	助け合いに抵抗がある人は社会福祉協議会や民間事業者へ依頼する
	高齢者がエイジフレンドリーに暮らすために必要な資産やその処分方法について学ぶ

ご近所付き合いが希薄

課題	隣近所の付き合いが少ない・引っ越してきた人と地域の関わりが希薄
	地域で困っている人の情報が入ってこない
	緊急時、どこに、どんな手段で連絡を取るのか分からない
	困っていそうでも、声をかけるのは難しい
	地域全体の高齢化で近所の助け合い困難・8050問題
アイデア	近所や各種団体（老人クラブなど）でグループを作り支援する
	独居高齢者と大学生とのシェアハウス（空き家活用、世代間交流）

空き家問題

課 題	住んでいない家、空き家の増加
	空き家は防犯上、景観上問題があるが個人の資産なので干渉しにくい
	空き家を活用したいが、貸し手との折り合いがつかない
アイデア	空き家をリフォームして集える場を設ける
	空き家を利用して学生や地域の人が利用できるアトリエ（作業スペース）にする
	空き家マップを作って可視化する



基本目標3において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 介護が必要になってもリフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす
2. 高齢期の住まい方と住宅資産の在り方について産官民で考えていく
3. 自宅で暮らし続けるための住宅管理・生活支援について民間・ご近所助け合いの選択肢を増やす
4. 空き家問題などについて若い世代への流通や交流空間としての活用を含めて検討する

基本目標 4 生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進

指標（主観的指標）	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合
市が目指している方向性	・元気な高齢者が増え、趣味・スポーツ・生涯学習など積極的に地域社会に参加 など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

参加者が限定的

課 題	市民サービスセンターには色々な活動があり、元気な高齢者もいるが、集まる顔ぶれは毎回同じ
	集まる場所はあるが、使われていない
	サークルの担い手不足
アイデア	目的別に活動の選択肢を増やし、多くの人に参加しやすい活動にする
	町内会や老人会への参加を促す。町内合同サロンの開催
	横のつながりや声かけを大切にする

身近なところに気軽に集まれる場所がない

課 題	身近なところにサロンがない・通うための移動手段がない
	自宅に要介護者がいるため、家を空けられない
	サロンの開催頻度が少ない→担い手不足
アイデア	身近なところに活動の場所を増やす
	空き家を活用した「集いの場」を設置する →行政がリフォームを支援し、地元住民も費用負担をする
	自宅に要介護者がいても参加出来るような工夫する

参加しにくい地域活動

課 題	活動内でグループが完成しているため、新たに入りにくい
アイデア	参加したい活動を選べる位に多くのサロンや活動を増やしていく

参加しにくい地域社会

課 題	アパート、マンションの方との交流が少ない
	若い人はスポーツ少年団等の活動があり参加しない
アイデア	道路を歩行者天国にしてイベントを実施する
	子ども会などを巻き込んで活動を進める
	動物園を高齢者に開放してもらう

男性や閉じこもり気味の人の社会参加

課 題	男性の参加者が少ない→どうやって参加を促すか
	閉じこもり気味の人へどう対応するか
アイデア	何に興味があるのかを把握し、興味のあることで声をかけてみる



基本目標 4 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 元気な高齢者が引き続き、積極的に地域活動に参加している
2. 身近な場所に気軽に集まれる交流機会・空間を増やしていく
3. 本人の病気や家族の介護で地域活動に参加しにくい方を支援する
4. 若い世代や男性高齢者など、何に興味があるのかを知り、興味のあることで声をかける

基本目標 5 あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり

指標（主観的指標）	年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合
市が目指している方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の交流が活発 ・町内会活動も円滑 ・若い世代が地域活動に積極的に関わっている など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

地域の人間関係の希薄さ

課題	近隣に新しい家が建つが、住んでいる人の顔がわからない
	小中学校を卒業すると地域の行事から離れてしまう
	隣近所での立ち話等もなくなった
アイデア	先輩住民の方から門戸開放に積極的に取り組む
	地域で交流の場と機会をつくる（転居者、子育て世代との交流）
	近所づきあいと助け合いは分けて考える（助け合いまでは負担）

多世代交流の機会が少ない

課題	高齢者は若い世代と交流したいが機会がない・多世代交流が少ない
	価値観や幸福感の違う、若者と高齢者の世代間交流は難しい
アイデア	中学、高校、大学等の学生と高齢者の交流の場を設ける
	イベントを大会方式の活動にして盛り上げる（グランドゴルフ大会、卓球大会、カラオケ大会など）
	若い世代が積極的に参加したくなる興味のある活動を増やす

地域の担い手不足

課題	地域の担い手、後継者探しが大変
	町内会の役員となって協力する人がいない
	町内会等、各種団体で若い世代が不足していて将来的に維持できない
	若い世代に、地域活動へ参加することの魅力やメリットをアピールできていない
アイデア	町内会の在り方について、改善を検討し、仕事・子育て等で忙しい若い世代でも町内活動に参加しやすくする
	地域のお祭りなどで、人手不足を発信して、参加を促していく

無意識に壁ができています

課題	若者と高齢者の間に無意識の壁がある
	地域の多世代交流が、町内会役員等を若い世代に任せることと混同されている
	転入者との言葉の壁（方言の違い）を感じる
アイデア	地域の祭りなど、気軽に参加できるイベントの開催



基本目標5において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 隣近所との適切な距離と密度のお付き合いを続ける（新住民や若い世代との交流）
2. 多世代交流を盛り上げる
3. 若い世代のライフスタイルやニーズに沿った、若い世代が参加したくなる身近な地域づくり
4. 若い世代に任せていく町内会・自治会の在り方を見直していく

基本目標 6 高齢者の就業や市民参加の機会創出

指標（主観的指標）	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合
市が目指している方向性	・人生 100 年時代を迎え、生涯現役で活躍できる場を創出する など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

高齢者就労の課題

課題	高齢者の働ける場所が少ない
	働きたい高齢者がいるのに、受け入れる企業側の体制が整っていない
アイデア	高齢者と障がい者が一緒に働く仕事をつくる
	高齢者が自分の特技、経験を行かす場をつくる
	仕事を細分化して短時間勤務を可能な環境にする
	1 時間でも仕事ができる所があればいい

有償ボランティアの問題

課題	有償ボランティアの活用は、手続きや仕組みに手間がかかる
	高齢者の有償ボランティアはどれくらい求められているのか？
アイデア	高齢者が有償で活躍できる場を積極的に増やす
	得意なことを提供できる場所の提供、仕組みづくり（有償≠お金）
	有償ボランティアの告知板を設置してマッチングする

高齢者の活躍の場の創出

課題	皆が地域の活動をやりたいわけではない
	地域でどんな活動が開催されてるのかわからない（地域の情報不足）
アイデア	町内会でちょっとした役割を担当してもらう
	就業と活躍の場を区別して考える
	居場所がある（人から求められる）事が重要

若い世代の市民参加の機会・活躍の場がない

課題	高齢者だけでなく、若い世代の活躍の場がない
	若者の担い手不足
アイデア	若い人達へ権限を委譲する
	若い人の得意分野を活用する
	若手を指導する



基本目標6において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 高齢期においても、これまでの経験を活かした仕事ができる・仕事を続けられる社会を目指す（企業の受け入れ、ジョブと技術のマッチング）
2. 有償ボランティアの促進（当事者の得意なことが生きる仕組みづくり）
3. 高齢者活躍の場と若い世代の活躍の場づくり（得意分野に対して、ニーズマッチングや権限委譲などを図っていく）

基本目標 7 高齢者の情報環境の整備

指標（主観的指標）	地域において福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合
市が目指している方向性	・高齢者が必要とする情報が行き届くよう、あらゆる広報媒体を使用して情報提供する など

【ワークショップで出された課題・アイデア】

読みにくさ

課題	役所等からの郵便物の内容が理解できない
	行政文書が難解で、内容が理解できない
	「広報あきた」の情報が多すぎてわかりにくい（文字が小さい、カタカナ言葉が多い）
アイデア	情報をシンプルに伝える
	紙媒体の見やすい広報（高齢者用の広報紙）
	広報の内容のうち、ポイントになる部分を大きくする（情報が全て平面的にみえる）
	新聞を活用した情報提供

個人情報共有

課題	民生委員が行政から高齢者の情報を入手できない
アイデア	個人情報を守りながら、必要な情報を伝える仕組みづくり（地区素組織で連携・常設サロンが窓口となる）

不審な郵便物やメールへの対応

課題	詐欺のような郵便物やメールへの対応方法が分からない
アイデア	電話すれば手助けしてくれる仕組みを作る（信頼できる友人、民生委員など）

回覧板が活用されていない

課題	回覧板が活用されていない（行政情報が届いていない）
	回覧では情報が行き届かない（見ないで回す人が多い）
アイデア	情報提供は各戸配布にする
	高齢者を親に持つ世代に情報を届ける
	高齢者専用の情報媒体が必要

デジタル対応

課 題	高齢者のデジタルデバイド (デジタルを使える人とそうでない人との格差)
	S N S を使いこなせない人への対応
アイデア	高齢者対象のスマホ・インターネット教室で、若い世代が教える場所があればいい
	「広報あきたを読み解く」テレビ番組を作る

ホームページが不便

アイデア	ホームページの各記事の後に、理解度チェックを入れる→評価改善
	「広報あきたを読み解く」テレビ番組を作る



基本目標7において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 高齢者が見やすく・理解しやすい広報・行政情報を目指す
2. 高齢者がデジタルに対応できるように支援していく
3. 人から人への情報提供の在り方を積極的に取り入れる
4. 新聞やテレビ番組の活用など、高齢者の目に触れる情報発信を行う

基本目標 8 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり

指標（主観的指標）	医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合
市が目指している方向性	・健康寿命の延伸や、最後まで自宅・地域で暮らせるシステムを構築する。

【ワークショップで出された課題・アイデア】

相談できない不安

課題	認知症は重症化してからの相談が多い
	独居生活で体調悪化した場合の相談方法、相手がわからない
アイデア	地域包括支援センターと連携する
	民生委員が来てくれると安心

生活支援

課題	生活困窮者の把握が難しく、対応に苦慮している
	買い物、通院など、生活支援に関する困り事が多い
	家族がいないと通院、食事に困る
アイデア	病院への送迎サービス（予約できる）券
	見守りや声かけをして困っている事を手伝ってくれるヘルプ隊

在宅ケアの課題（不安）

課題	車往診医が少なく、選択肢が少ない
	家での看取りは協力者が少ない家庭が多く、現実的に難しい
	一人暮らしの高齢者は、元気なうちに施設入所が現実的（外部支援だけで最後まで自宅は無理）
アイデア	往診医について地域包括支援センターに相談する
	在宅生活の支援体制について具体的な情報提供をする

医療、介護、福祉の課題

課題	入院・術後の社会復帰までのリハビリ環境が乏しい
	自立出来るまでのサポート不足
	病院の待ち時間が長い（予約でも長い）
	在宅介護を支える人材が少ない
アイデア	全国で実績のある市町村の取組の紹介
	行政だけでなく、住民も積極的に取り組む

健康寿命の延伸

アイデア	小中高校での健康教育の充実
	運動できる場所よりも運動できるきっかけづくり
	地域活動の参加



基本目標 8 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 健康寿命の延伸
2. 一人ひとりが家族以外で身近に相談できる体制を持つ
3. 家族に頼らなくてもすむ生活支援体制の充実
4. 先進事例などを学び、住宅医療や住宅介護について、住民自身が理解をしていく
5. 医療、介護、リハビリ資源（医療介護従事者を含む）の充実

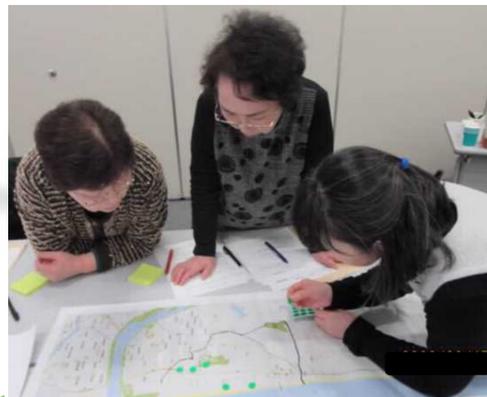
4 西部地区におけるエイジフレンドリーシティ推進戦略

ワークショップで出された様々なアイデアの中から、次の4つを推進戦略としてまとめました。

基本目標1 安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備

【課題】

- ・道路が狭い
- ・バス路線の歩道が整備されていない
- ・坂道が多くて高齢者は特に大変。道路を安全に通行するためにはどうしたらいいか



基本目標4 生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進

【課題】

- ・地域のサロンはグループが完成していて新たに入りにくい
- ・男性の参加者が少ない
- ・サロンに通うための移動手段がないし、身近なところにサロンがない。
- ・みんなが参加しやすい居場所がない



1 【危険マップ作成戦略】

1. 歩道を「ゾーン30」「商店ゾーン」「高齢者ゾーン」に色別する
2. 子どもたちや町内のみんなで街を歩いて危険な箇所をマップ化する
3. 危険マップを道路管理者に提供し活用してもらう



3-1 【バス停にベンチ作戦】

1. 「ふれあいの場」とすることが可能なバス停の場所や手法について、バス事業者やパートナー企業から情報収集する
2. バス停にベンチと自販機を設置し、「ふれあいの場」とする

3-2 【イートイン! 作戦】

1. スーパーに場所を提供してもらい、購入したお惣菜を食べながらおしゃべりできるイートインスペースをつくる
2. 「今日は〇〇の日」といった看板を設置し、得意なことを披露したり、告知板を設置して困り事を助け合える場にする

基本目標3 安心して快適に住み続けられる住環境の整備

【課題】

- ・戸建て住宅の管理が大変（掃除、ゴミ捨て、除雪）
- ・空き家（住んでいない家）は個人の資産のため干渉しにくい
- ・空き家は防犯や景観上問題がある。増えないようにするにはどうしたらいいか



基本目標6 高齢者の就業や市民参加の機会創出

【課題】

- ・高齢者みんなが地域活動に参加したいわけではない
- ・高齢者だけでなく、若い世代も活躍の場がない
- ・ボランティアをやりたい人、やって欲しい人の実情がわからない



2 【空き家マップ化戦略】

1. 民生委員が空き家（荒れている住宅）を確認する
2. 空き家の状況（空き家かどうか、管理されているかなど）を一覧表にまとめる
3. 空き家活用促進のための制度を検討（所有者との橋渡し、固定資産税軽減など）
4. 荒れた住宅については、声かけを行うなど、必要に応じて町内や包括支援センターと連携しフォローする



4 【得意なことが活かせる場所・しくみ創出戦略】

1. ボランティアに興味がある人がどんなことが得意なのか、町内会や地区社会協議会が中心となって情報収集を行う
2. ボランティアを必要としている人はどれくらいいるのか、望んでいることは何か、生活支援コーディネーターや協議体を中心となり、町内会単位で座談会を開催し現状を把握する、
3. たのしいボランティアから育む気軽な生活支援を行う

5 推進戦略の実施に向けて

ワークショップを通じてまとめられた4つの推進戦略を実現するための目標や実施主体を以下のとおりまとめました。今後は、推進戦略の実施に向けて、行政、市民、民間事業者の三者がそれぞれの役割を發揮しながら取組を推進していきます。

(1) 2022年度（令和4年度）までの実施目標

	戦略名	実施目標（案）	実施主体（案）
1	危険マップ作成戦略	危険マップを1地区で作成する	市民
		危険マップの活用について検討	秋田市、道路管理者、警察
2	空き家マップ化戦略	空き家(荒れた住宅)マップ作成し、状況を確認して一覧表にまとめる	秋田市、市民（児童民生委員）
		空き家活用促進のための制度を検討する（税の軽減、所有者との橋渡しなど）	秋田市
		荒れた住宅へのアプローチ方法について検討し、必要に応じて情報提供をおこなう。	秋田市、生活支援コーディネーター、市民
3	バス停にベンチ作戦およびイトイン！作戦戦略	「ふれあいの場」とすることが可能な場所について、情報収集を行い、ベンチ設置の手法などを検討する。	秋田市、バス事業者、市民、民間事業者（パートナー）
		地域内のスーパー1店舗に場所を提供してもらい、イトインスペースを作る。 ◎コロナ禍では実施に向けた検討は困難であるため、本作戦は、新型コロナウイルス感染症が収束してから検討を行う。	市民、民間事業者（パートナー）
4	得意なことが活かせる場所およびしくみ創出戦略	1地域で、町内会や地区社会協議会が中心となり、ボランティア活動に興味がある人の特技（提供できる技術）について情報収集し、生活支援コーディネーターや協議体を中心となり、特技を活かしたボランティアを行うための手法を検討する。	秋田市、市民、民間事業者（パートナー）

6 さいごに

今回のワークショップを通じて、西部地区における課題が整理され、エイジフレンドリーシティを実現するためのアイデアが具体化されてきました。今後は、令和4年度までの実施目標をもとに、これらの戦略について、行政、市民、民間事業者の三者の協働により「実現可能なものなのか」「さらにいいアイデアがあるのではないか」といった検証を繰り返しながら、実現に向けた取組を推進していきます。

【注釈一覧】

- ※1 **生活支援コーディネーター**：介護予防・生活支援サービスの担い手の養成・発掘等の地域資源の開発、サービス提供主体間の連携体制づくりなどを行う。秋田市では、平成30年（2018年）4月から市内18箇所全ての地域包括支援センターに配置されている。
- ※2 **エイジフレンドリーパートナー**：秋田市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする企業・事業者等をエイジフレンドリーパートナーとして登録し、民間サイドからエイジフレンドリーシティの実現に向けた取組を推進しようとする制度。
- ※3 **秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会**：学識経験者や専門家、公募市民等を含む委員から構成された委員会。秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の円滑な推進を図るため、行動計画に係る施策の進行管理や評価、新たな施策の提案を行う。

エイジフレンドリーシティ推進戦略～西部地区編～

2020年 月発行 秋田市福祉保健部長寿福祉課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

電話：018-888-5666 FAX：018-888-5667

E-mail:ro-wflg@city.akita.lg.jp

エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ（西部地区編）参加者

※所属先等はワークショップ参加時のものです。（敬称略）

【勝平地区】

- | | |
|--------|----------------------------|
| 佐々木 直美 | 勝平地域包括支援センター生活支援コーディネーター |
| 高柳 龍哉 | 第2層協議体（勝平寺 副住職） |
| 佐藤 眞紀男 | 新屋勝平地区民生児童委員協議会 |
| 菅原 由真 | 社会福祉法人一羊会 One memory 主任支援員 |
| 藤田 聡人 | 社会福祉法人一羊会 One memory |
| 大矢 六夫 | 前 南浜町町内会長 |
| 佐々木 勝美 | 地域住民 |
| 佐々木 美香 | バイタルケア秋田南介護サービス 管理者 |
| 小松 志保子 | バイタルケア秋田南介護サービス介護支援専門員 |
| 山崎 弘子 | 第2層協議体（ライフクリエートオフィス） |
| 三澤 仁 | 新屋勝平地区社会福祉協議会 |
| 長谷部 一 | 松美ガ丘北町町内会長 |
| 菅生 紀光 | エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 |
| 佐藤 鉄行 | 地域住民 |

【新屋地区】

- | | |
|-------|--------------------------|
| 田中 有子 | 新屋地域包括支援センター生活支援コーディネーター |
| 細部 吉光 | 八田町内会長 |
| 渡邊 宏 | 株式会社 石黒建設工業 |
| 石黒 勝人 | 豊興産株式会社 |

横山 総太	豊興産株式会社
岩崎 一耕	秋田公立美術大学 2年
照井 美智子	新屋地域包括支援センター 認知症地域支援推進員
佐藤 由忠	豊岩地区社会福祉協議会
鎌田 安則	株式会社フォーエバー事務管理部事務長
花澤 富見子	有限会社 t o b e 代表
伊藤 達也	秋田公立美術大学 2年
鈴木 貴将	新屋地域包括支援センター
鈴木 織江	新屋地域包括支援センター 社会福祉士
佐藤 智子	下浜地区民生児童委員
